

教室のアクセシビリティ（情報面、物理面など）

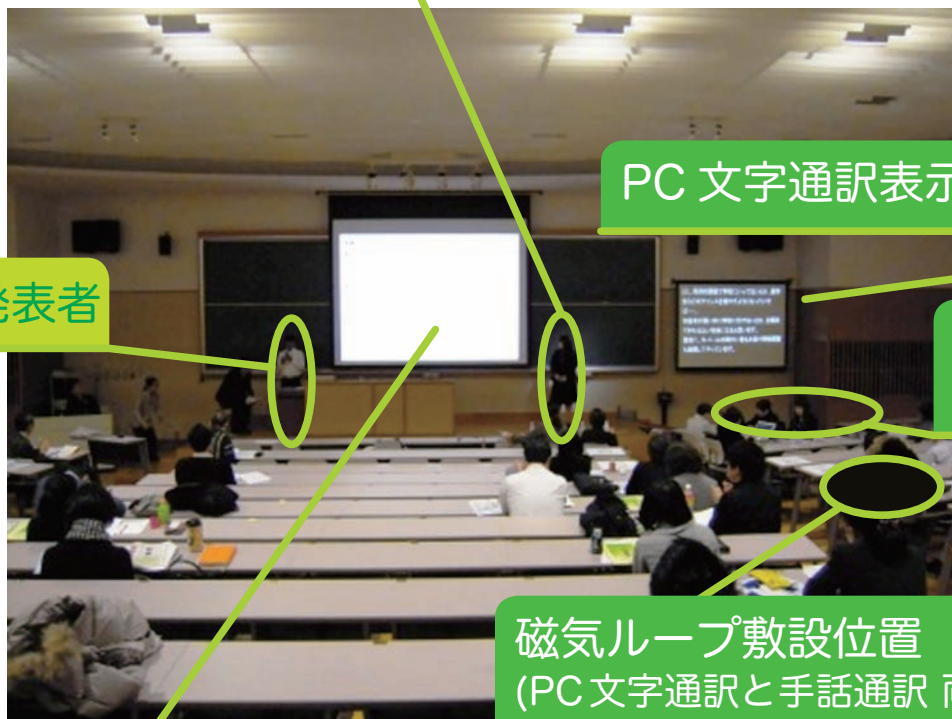
READ 公開講座の例

READ で使用した東大経済地下大教室は、READ 開始当時、壇上に車いすユーザーが上がるのに不可欠なスロープもなく、照明が暗くて手話通訳を見づらく、文字通訳を映写するスクリーンも古くて傾くといった状態でした。実際にさまざまな障害のある人が使い、来場者のご意見も受けて、取り外しできるスロープ、スポット照明、固定スクリーンなどを整えてきました。毎回、通訳者の位置や会場の使い方を打ち合わせて、公開講座や学部横断講義を実施するなかで、現在の姿になっています。

手話通訳者

（複数派遣となるため、待機者席も近くに設置必要）

☆スライドを提示しながらの発表の場合、スライドと手話通訳を 同時に見ることが難しくなるため、極力、手話通訳位置は発表者スライド表示用スクリーンの近くにする



PC 文字通訳表示用スクリーン

発表者

PC 文字通訳者
（半日で4名1組）

磁気ループ敷設位置
（PC文字通訳と手話通訳 両方が見やすい位置）

発表者スライド表示用スクリーン